

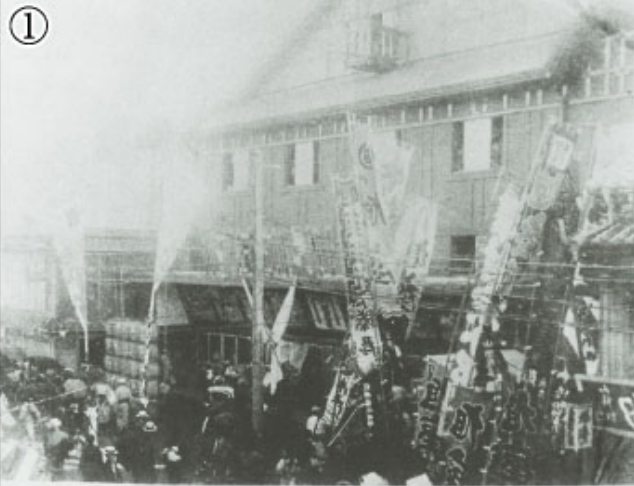


門司港の発展に伴い、大手企業の開業が増加し、社員やその家族が移り住みました。人口の増加に伴い、街が賑わい、庶民が楽しむ娯楽施設が増えてきました。地図上の路面電車の線路（赤線）から南側（下側）の地域は、繁華街として、当時の娯楽の筆頭である劇場や、料亭、遊郭などが軒を連ね、多くの人々で賑わっていました。また、地図の東側（右側）にある筆立山の下には遊園地の文字も見られます。

※当時の遊園地はアトラクションがあるわけではなく、大きな広い公園をさしていたようです。

この時代から昭和にかけて門司港は栄え、戦後から現在へと姿を変えていきます。現在では当時の建物はわずかしか残っておらず、その地域で当時の建物を探してみても、殆どが取り壊されています。これらは、単に老朽化で取り壊されただけでなく、区画整理や、拡幅工事によって取り壊されました。しかし、わずかだけ現存している当時の建物や、その街のもつ生活感を感じ、当時の地図を見ながら、巡ってみては如何でしょうか？

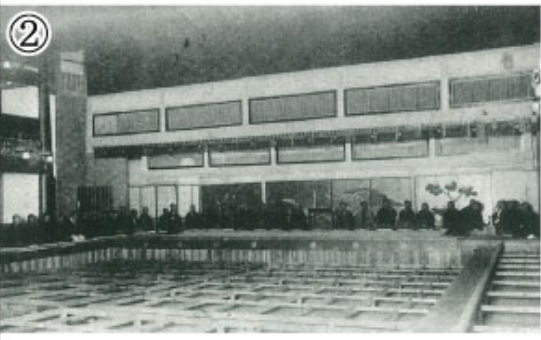
※現在では住宅地として、多くの方が生活をされています。散策の際はくれぐれも地域住民の迷惑にならないよう、ご注意ください。



全組座落座組司門社合式株

①旭座  
大正10年9月に開場。当時門司最大の劇場で、博多の大博劇場をもして作られました。昭和7年火事のため全焼し、建

て直されることはありませんでした。旭座では歌舞伎の舞台だけでなく、声楽の佐藤千夜子が映画『この太陽』の封切りで出演したり、バイオリンの世界的演



奏家ハイフェッツの公演などもありました。写真①は旭座開場当日の様子。写真②は開場の日に関係者が舞台上に一同に介している様子で、客席は柵席ということがわかります。

②馬場遊郭  
元は明治28年に塩田を埋め立てたあとに作られた『塩竈遊郭』がこの場所にあり、その後『馬場遊郭』と名前が変わりました。資料として、この中で働く娼妓の人数は明治40年2月の時点で232人、明治39年中にきた客数は92,721人(内外国人706人)と記されています。

写真③は、馬場遊郭の前身である塩竈遊郭、写真④は、馬場遊郭の入口の写真です。遊郭の入り口にはわかりやすく『遊郭』の文字が書かれています。⑤は④の写真の入口から奥に進んだ写真です。妓楼の中で生活する人々の姿や、通りの中央に特徴的な外灯が並んでいることがわかります。



③稲荷座  
創業は明治20年代。門司の劇場の元祖。大正2年に火災で消失しましたが、再建し、戦後にいたります。戦後は、劇場ではなく、新東宝、大映などの映画封切館として市民に愛されました。写真⑥は稲荷座の舞台の様子。写真上部に掛かっている幕には【サクラビール】の文字が見られます。写真⑦は新東宝九州第一封切り記念の『海の征服者』『桃の花の咲く下で』上映を宣伝している姿。作品の公開時期から昭和27年頃の写真。



④三宜楼  
出光興産創業者 出光佐三がひいきにしていた「料亭三宜楼」。現存している建物は昭和6年に建てられたもので、現存する料亭の建屋としては九州最大級です。明治39年に旧三宜楼を開業。当時の店舗が手狭になったため、明治44年に現在の場所に店舗を新築しました。その後、昭和6年に改築し現在の姿になりました。写真⑧はかつて開業していた頃(現在の建屋に改築後)のもので、今では見られない周囲を囲むように建っている家々の屋根が見られます。



⑤群芳閣  
明治28年に料亭として創業。当時は木造5階建てで、階段や廊下は漆塗りという豪華な作りでした。次第に客を泊めるようになり旅館となりました。道路拡張のため移築され、木造2階建ての全12室となりました。その後、老朽化、跡取りが無いことが重なり、平成28年3月に惜しまれつつも取り壊されました。写真⑨は当時全体を写真で捉えることが出来なかったために描かれた絵葉書の画像です。

⑧群芳閣  
明治28年に料亭として創業。当時は木造5階建てで、階段や廊下は漆塗りという豪華な作りでした。次第に客を泊めるようになり旅館となりました。道路拡張のため移築され、木造2階建ての全12室となりました。その後、老朽化、跡取りが無いことが重なり、平成28年3月に惜しまれつつも取り壊されました。写真⑨は当時全体を写真で捉えることが出来なかったために描かれた絵葉書の画像です。